



05年アパレル輸入35億点に 中国比率は92%にも

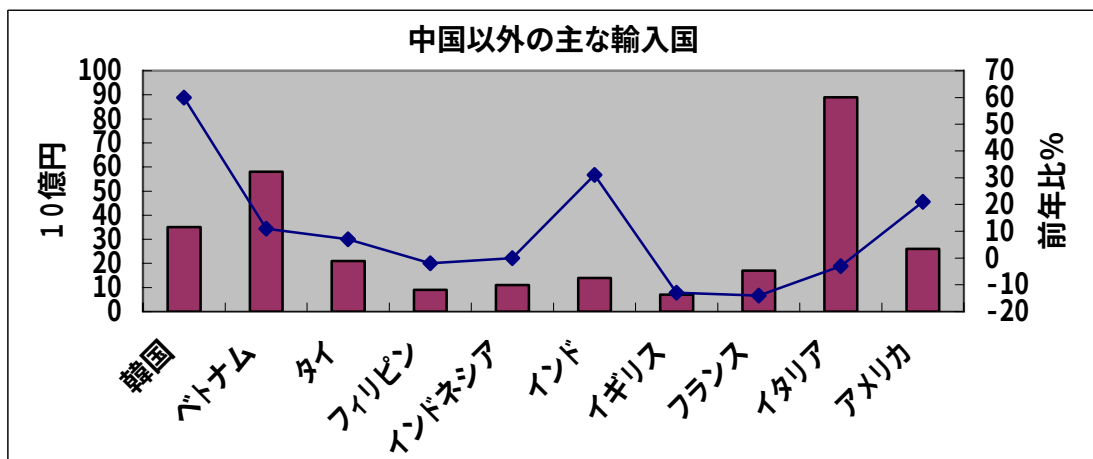
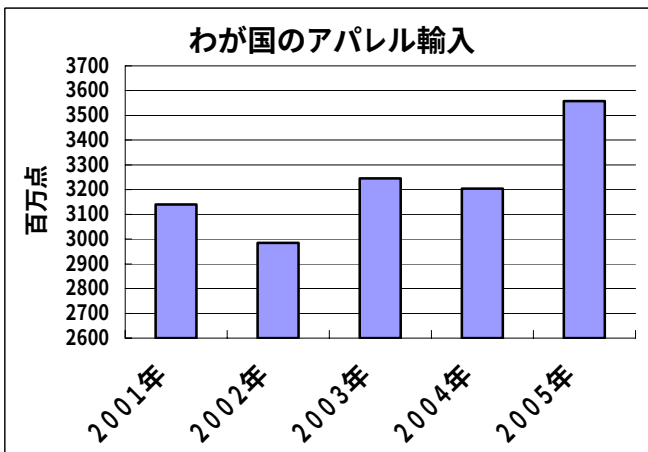
尾州産地を追い込んでいるアパレル製品の洪水輸入——。2005年も史上最高を更新した。05年のアパレル輸入は数量で35億点を突破し、3年連続の30億点超えとなった。生地産地である尾州産地にとってアパレル製品の輸入は“中抜き”にも匹敵するもので、事態は極めて深刻だ。以下、05年のアパレル輸入の現状を探る。

財務省貿易統計によると05年のアパレル輸入は数量ベースで35億5808万5000点、前年比3%増となった。金額では2兆1180億7300万円、同6%増となった。約35億点という数字はわが国1人当たり約30枚に相当し、金額の2兆1180億円は末端市場では約6兆円（末端価格を輸入価格の3倍として）に達する膨大なものである。

05年のアパレル輸入で特徴的なのは

- ①中国からの輸入が2年連続で30億点を超えて、前年よりシェアを高めた。(91.7%)
- ②最近繊維産業に力を入れているインドからの輸入は数量で26%、金額で31%増加した。
- ③同様にベトナムもそれぞれ10%、11%増加したことである。インド、ベトナムが増大したといっても約92%という中国のシェアからみれば知れているが、今後の動静を占う点で特徴的である。

韓国は金額では60%の伸びとなったが、数量では11%の減少である。これは違法通関取締り強化の影響と見られ、一時的な現象だ。またアメリカも金額で21%の伸びとなっているが、数量は7%減で、商品の高級化が伺える。



05年の輸入平均単価は595円で、同2.9%増となった。さまざまなアイテムが含まれているため、こうした低価格となっているが、その中でも二つの方向が明らかだ。アジア価格と欧米価格である。

アジア価格帯は540円（中国）から1045円（フィリピン）までの間にあり、いわゆるボリュームゾーンを構成、欧米価格帯は2413円（アメリカ）から1万666円（イタリア）ベターゾーンを構成している。アメリカはカジュアル商品が中心と見られており、2000円台だが、イタリアはブリッジベターないしハイベターが中心とみられる。こうした輸入価格帯に対して尾州産地がどう対応していくのか、価格ゾーンの絞込みが課題となろう。

1億点を超えた主なアイテムは以下の通り。

<ニット>

セーター・カーディガン

5億8905万5000点 前年比7%減

アウターシャツ

5億6227万9000点 同 7%増

Tシャツ類

3億3470万4000点 同 6%増

<布帛>

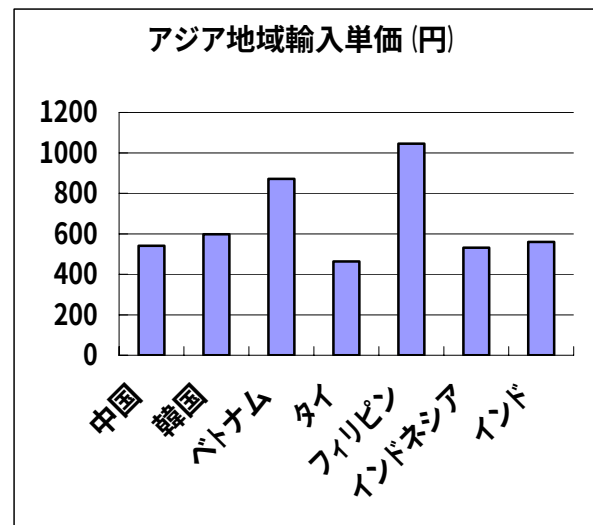
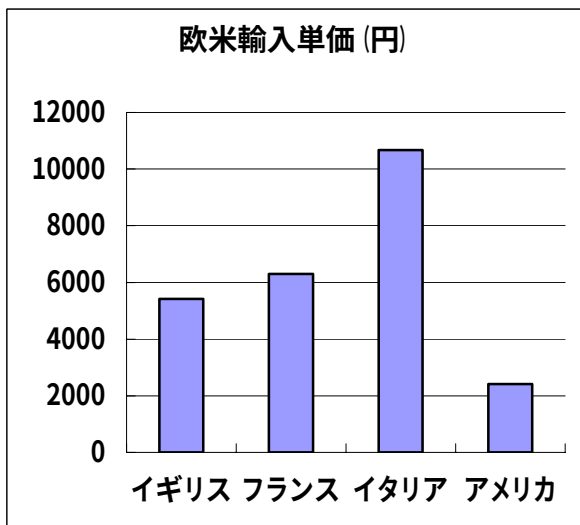
紳士スラックス

1億3623万3000点 同 2%増

婦人スラックス

2億0162万1000点 同 1%減

ともあれ、わが国のアパレルの洪水輸入は05年も歯止めがかからず、尾州産地を始め全国のテキスタイル産地では、輸入品と競合しないオリジナル素材の開発に拍車がかかろう。



FDC特別セミナー

「2007春夏ヨーロッパ素材展緊急報告」

平成18年 3月27日 (月)

15:30~